

平成 30 年度鳥羽市防災訓練

「津波避難・避難所運営訓練」 地震だ！津波だ！みんな逃げよう

鳥羽市は、南海トラフ地震の発生に伴う大津波が想定されており、突発的な大地震が発生したときに「揺れたらすぐ逃げる」を実践するため、市内全域で最寄りの『津波避難場所』などへすぐに避難する訓練を実施します。

避難後は、一部地域で避難所の開設や運営も体験できます。みなさんぜひ参加してください。

とき 10月20日(土) 午前9時～11時 予備日：10月27日(土)

ところ 最寄りの市指定の『津波避難場所』
または『町内会などで決めた避難場所』

※津波避難訓練のあとに、町内(自治)会で避難所運営訓練を実施する地区もありますので、ぜひ参加してください。

(くわしくは、各町内(自治)会を通じてお知らせします)

総務課防災危機管理室



☎ (25) 1118

一人一人が備えてこ！
防災力UP！鳥羽

vol.64

過去に実施した避難訓練の様子



2020年東京オリンピック・パラリンピック開幕まであと2年を切りました。各競技のスケジュールが続きと決まり、大会マスコットキャラクターが発表されるなど各種メディアでは盛り上がりを見せ始めています。さて、このオリンピックですが、女性選手が初めて参加できるようになったのは、1900年の第2回パリ大会でした。しかし、このパリ大会においても出場選手に占める女性選手の割合は10.66人中12人。参加種目もゴルフとテニスのみで、女性が参加できる種目は、大会を運営する男性役員が「女性らしいスポーツ」とみなした競技と限られていたそうです。

その後、女性の権利と社会進出が認められていく中で、オリンピックにおける女性選手の参加割合は増加し、それと同時に女性が参加できる種目も増えていきました。2020年東京オリンピックでは、「男女平等」を進める国際オリンピック委員会の方針に沿い、女子や混合の種目の導入が進み、出場選手に占める女性選手の割合は5割に迫る見通しです。このように、女性スポーツの歴史をふり返ってみると、スポーツ界における男女間格差はなくなってきたように感じます。しかし、出産・育児期の女性アスリートが抱える競技生活と家庭生活の両立の難しさや、コーチやスポーツ組織の役員のうち女性の占める割合の低さなど、スポーツにおける女性の活躍を推進していくためには、解決していくべき課題がまだまだたくさんあります。2020年東京オリンピックでは、このような課題を乗り越え、性別を問わずあらゆる選手の活躍を期待します。

イコール
パートナー
シップ

Vol.131



女性とスポーツ

市民課人権・生活係

☎ (25) 1126